

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K12232

研究課題名(和文)在宅療養高齢者のスキン-テアを含む皮膚障害の現状と早期改善ケアプログラムの開発

研究課題名(英文)Current status of skin disorders, including skin tear, and development of care programs for improvement and prevention for elderly people receiving home care

研究代表者

片岡 ひとみ (KATAOKA, HITOMI)

山形大学・医学部・教授

研究者番号：70711232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：訪問看護ステーションを対象に在宅療養高齢者の褥瘡、排泄物に起因する皮膚障害、スキン-テア(皮膚裂傷)対策に関する質問紙を作成し、質問紙調査を行い、皮膚障害予防対策、皮膚障害発生後の早期改善のためのケアプログラムの検討を行った。1,740箇所の訪問看護ステーションに質問紙を郵送し、276施設から有効な回答が得られた。皮膚障害予防対策、皮膚障害発生後のケアについては、材料が手に入りにくいなどの課題があるものの、概ね適切な対策が実施されていた。一方、専門家に気軽に相談できる体制が求められていることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

皮膚障害予防対策、皮膚障害発生後のケアについては、概ね適切な対策が実施されていたものの、約半数が「使用する材料が手に入りにくい」、「相談窓口がほしい」と回答し、また、課題に関しては医師による処置方法の指示、処方内容、対応の違い等、医師に関する課題が多かった。現在、ケアプログラムの検討中である。スキンケアや褥瘡対策を得意とする医師や皮膚・排泄ケア認定看護師との連携を含め、在宅で活用できるネットワークづくり、情報共有、継続した啓発活動等の支援体制を構築する予定である。

研究成果の概要(英文)：The questionnaire was developed and sent to 1,740 visiting nurse stations by mail to investigate measures to prevent skin damage and care programs for early improvement after the occurrence of skin damage. The valid responses were obtained from 276 facilities. Regarding measures to prevent skin damage and care after the occurrence of skin damage, appropriate measures were generally implemented, although there were some issues such as difficulty in obtaining materials. On the other hand, the survey indicated that there is a need for a system that allows easy consultation with specialists.

研究分野：看護学

キーワード：在宅療養高齢者 皮膚障害 訪問看護ステーション

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の現在、在宅療養高齢者の疾患や症状は多岐にわたり、高齢者は褥瘡に限らず様々な皮膚障害を有していると考えられる。

褥瘡については、訪問看護利用者の褥瘡有病率は日本褥瘡学会 2013 年の調査 (日本褥瘡学会 2015) では 2.61% であり、2010 年の調査と比較し約半分に減少した。また、2014 年度、訪問看護師による褥瘡管理に関する診療報酬が改訂され、褥瘡対策に関する系統的アプローチが確立しつつあると推察される。

しかし、高齢者の皮膚は生理機能が低下するため外部からの刺激にて容易に損傷を受ける、いわゆる脆弱な状態である。そのため、皮膚障害を発生しやすく、原因の異なる皮膚障害が混在していることが多い。近年、脆弱な皮膚に発症しやすいスキン-テア (皮膚裂傷) や排泄物に起因する皮膚障害が大きな問題と言われている。スキン-テアとは、摩擦単独あるいは摩擦・ずれなどが原因となり、皮膚が裂けたり、剥がれたりする皮膚損傷である。療養者が自身で移動、移乗、身体の向きを変える時、ベッド柵と四肢の摩擦等が起きると発生しやすい。それ以外にも、体位交換や移乗の支援を行う際に介助者が力任せに介助を行うと、不必要な摩擦やずれが生じ発生しやすくなる。排泄物に起因する皮膚障害については、高齢者の 46~72% が有する (Blis 2006) とされる排泄障害があると、排泄障害保有者の約 40% に排泄物に起因する皮膚障害が発生すると報告されている (Coffey 2007)。これらの皮膚障害は一度発生すると治療時間や治療コストが増大するだけでなく、痛みを伴い、活動性の低下や療養者のウェルビーイングに大きく影響する。さらに褥瘡発生リスクの高い患者に起こりやすいと報告されている (紺家千津子 2015)。このように、在宅療養高齢者は褥瘡を含め様々な皮膚障害の発生リスクが高く、さらに皮膚障害発生後の問題は大きいにも関わらず、在宅療養高齢者の皮膚障害の現状については明確な調査や報告は実施されていない。

今後、在宅療養高齢者の疾患の多様化、高度医療を受ける療養者の増加が予測される現状において、皮膚が脆弱な高齢者数はますます増加すると推察されるため、在宅療養高齢者の皮膚障害の発生要因、予防対策および発生後ケア内容の現状を明確にし、予防対策及び発生後早期改善となるケアプログラムの開発が必要である。

### 2. 研究の目的

本研究では、訪問看護を利用する在宅療養高齢者の皮膚障害の発生要因、予防及び発生後の対処方法についての実態を明らかにし、皮膚障害予防対策、皮膚障害発生後の早期改善のためのケアプログラムを検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### 1) プログラム開発のための現状調査

訪問看護を利用する在宅療養高齢者の皮膚障害に関する現状について、全国訪問看護事業協会ホームページに掲載されている訪問看護ステーション 5,285 箇所から、各都道府県 3 分の 1 を系統抽出法により抽出し、1,740 箇所の訪問看護ステーションを対象とし、2018 年 1 月~2 月、郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。褥瘡、排泄物に起因する皮膚障害、スキン-テア (皮膚裂傷) の現状について記述統計を行った。さらに、自由記述された内容から皮膚障害の対応で困っていることや課題に関して記述されている内容を取り出し、カテゴリー化を行った。

#### 2) ケアプログラム開発の検討

訪問看護師及び学内研究分担者と検討を重ね皮膚障害予防対策、皮膚障害発生後の早期改

善のためのケアプログラムの検討を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) プログラム開発のための現状調査

質問紙調査の回収は285(回収率16.4%)通、そのうち有効回答数は276通(有効回答率15.9%)であった。回答者の内訳は、男性20人(7.3%)、女性252人(91.3%)、平均年齢(標準偏差)は48.3(9.2)歳、訪問看護師経験平均年数(標準偏差)9.8(7.2)年であった。12月初日の訪問看護ステーション利用者数の平均(標準偏差)は74.5(64.5)人であった。皮膚障害を保有していた利用者がいた訪問看護ステーション数及び1施設の平均保有人数を表1に示す。

褥瘡、排泄物による皮膚障害及びスキン-テア対策に関するケア

洗浄方法については、いずれの皮膚障害も約95%の施設では微温湯で洗浄が行われており、処置方法については、排泄物による皮膚障害及びスキン-テアでは約97%は医師が処方した軟膏の塗布が行わ

れていたが、褥瘡処置では92%と他の皮膚障害と比べ若干低かった。また、排泄物による皮膚障害対策では約85%でワセリンが使用されていた。褥瘡、スキン-テアの予防対策については95%が保湿剤の塗布が実施されており、またいずれの皮膚障害にも約90%はワセリンが使用されていた。褥瘡予防対策では約70%ではドレッシング材も使用されていた。スキン-テアの予防対策については、靴下、手袋の使用は85%、ベッド柵やアーム・レッグカバーの使用は約65%であった。

皮膚障害の対応での困難や課題

163名の自由記載を分析した結果、医師、知識や関心、材料入手、家族や介護力、制度や環境、相談先や情報入手に関する課題が導き出され、約半数が「使用する材料が手に入りにくい」、「相談窓口がほしい」と回答した。最も記載が多かった課題は医師に関する課題では処置方法の指示、処方内容、医師による対応の違い等であった。

##### (2) ケアプログラム開発の検討

現状調査の結果から、訪問看護を利用する在宅療養高齢者の皮膚障害対策に関するケアについては、概ね適切な対策が実施されていたと考えられた。一方、各々が実施している対策が間違っていないか、継続してよいか等の確認のため、皮膚・排泄ケア認定看護師等の専門家に気軽に相談できる体制が求められていることが示唆された。皮膚障害対策の実態をふまえ、研究分担者、研究協力者の訪問看護師、同行訪問経験のある皮膚・排泄ケア認定看護師らとケアプログラム及び体制づくりを検討中である。

#### 【文献】

日本褥瘡学会実態調査委員会:療養場所別褥瘡有病率、褥瘡の部位・重症度(深さ).褥瘡会誌17(1):58-68,2015.

Blis DZ, et al: Prevalence and correlates of perineal dermatitis in nursing home residents. Nurs Res55(4):243-51,2006.

Coffey A, et al: Incontinence assessment, diagnosis, and management in two rehabilitation units for older people. Worldviews Evid Based Nurs4(4):179-186,2007.

紺家千津子他:11施設におけるスキンテアの実態調査.日本創傷・オストミー・失禁管理

表1.皮膚障害種類別保有数

	訪問看護ステーション数(件)	平均保有数(人)
褥瘡	204	2.9
排泄物による皮膚障害	137	2
スキン-テア	105	2

学会 19(1):50-60,2015.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 片岡ひとみ	4. 巻 -
2. 論文標題 訪問看護師の在宅における褥瘡及びスキン-ケア対策に関する実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本褥瘡学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 片岡ひとみ
2. 発表標題 Current situation for visiting nurses in the care, prevention, and current status of skin disorders in diaper users
3. 学会等名 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片岡ひとみ
2. 発表標題 訪問看護師の在宅における皮膚障害対応に関する課題
3. 学会等名 第22回日本褥瘡学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片岡ひとみ
2. 発表標題 A questionnaire survey evaluating skin care management in home care setting - pressure ulcer management -
3. 学会等名 28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片岡ひとみ
2. 発表標題 訪問看護師を対象としたスキンケア対策に関する実態調査(第2報)-スキン-ケア管理-
3. 学会等名 28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大竹 まり子  (Ohtake Mariko)  (40333984)	山形大学・医学部・非常勤講師   (11501)	
研究分担者	松田 友美  (Matsuda Yumi)  (90444926)	山形大学・医学部・教授   (11501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------